

中国の携帯用万能充電器

よこやま ひろこ
横山 廣子
民博 人類基礎理論研究部



ガラケーの充電器を中国で探してみました
万能充電器を購入した店で、使えるようになった携帯をもつわたし（雲南省昆明市、2017年12月）

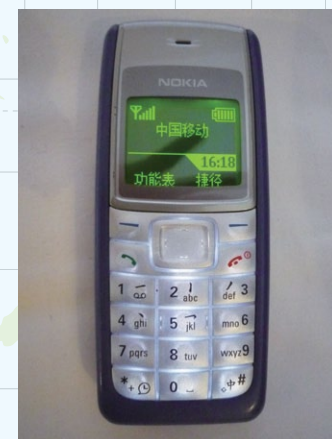
出張前日になって、中国で使う携帯の充電器が見つからない。急遽、留学生に電話したところ、中国には「万能充電器」があることを知らされたが……。今や姿を消しつつあるガラパゴス携帯の充電器をめぐるフィールド体験を紹介する。

海外出張前日

昨年一月、多忙が続き、出発前日になって、ようやく荷造りを始めて、わたしは慌てた。いつも中国で使う携帯電話の本体はあるが、充電器がない。前日の準備は山ほどある。少し捜したが、わたしは別の対応策を考えた。

充電器は、二〇〇六年に中国で買ったノキアのシンプルなフイーチャー！フオン、つまり「ガラケー」用であった。ノキアは二〇一〇年代前半に携帯端末事業から撤退し、中国であれだけ目立っていた「諾基亞」の文字を売り場で見ることにはなくなっていた。それでも雲南省の調査村では、まだノキアは使われていた。中古の携帯を売る店があれば、充電器も手に入るのではないかと考え、日本で学ぶ雲南の農村出身の留学生に電話をかけてみた。すると、「ノキアの充電器はちょっと難しいですが、万能充電器を買えばいいです」と言われた。それを使えば、どのメーカーの携帯電話でも、電池への充電ができるということだった。

雲南省では省都の昆明で資料収集と調査をした後、大理のペー族の農村で調査する計画であった。昆明で早速会う予定だった知人には夜のうちにメールを出し、昆明で万能充電器を買う予定だが、それまでは携帯が使えないと知らされた。知人は三十代の大学教員で、すぐに返信が届いた。自分が大学時代には使ったが、誰でもスマートフォンを使う現在、昆明で万能充電器が買えるのだろうか、という内容だった。



わたしが中国国内で使用するノキアのガラパゴス携帯

万能充電器を調達する

徹夜で出発し、夜遅く昆明に着いた翌朝は、寝坊をした。まずは雲南の関係者にメールで可能な限りの連絡をし、万能充電器の調達作戦を練ることにした。

携帯ショップは数多くあるが、そこに行っても無駄なことは、前日のトランジットの際、広い香港空港内の携帯ショップを回ってわかってきた。今回は鉄道駅付近のホテルに泊まっている。地方から来る人も行き交うこの地区は、ガラケーを使う人の比率が、ほかよりは高いだろう。この辺で販売店を捜すのは悪くない。

しかし、いざホテル周辺を歩き回っても、万能充電器を売っている店は見当たらない。疲れを感じて入ったレストランで食事をとっていたとき、レジの横にいた店主らしき人が目に入った。髪を短く刈

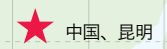


店内に並べられている万能充電器（昆明市、2017年12月）



多数の携帯・スマホ関連の商店が並ぶ通信機器タウンの1フロア（昆明市、2017年12月）

り込み、革ジャンとジーンズの中年男性で、ときばきと店員に指示を出し、店内は清潔に保たれていた。その様子と少数民族居住地域を連想させる店名で、わたしは地方出身の遣り手と判断した。支払い後、「万能充電器を売っている店を知りませんか」と尋ねた。すると、「あるよ。すぐそこだ」と親切に、店の裏側の道沿いにある「通訊城（通信機器タウン）」まで案内してくれた。



使いこなすまで

「通訊城」内でも探しに探して、万能充電器を扱う店にたどり着いた。店員がその場で実演してくれた。万能充電器には時計の針のような二本の端子が付いていて、二本の間隔を調節しながら電池の電極に接触させる。それを理解し、いそいそとホテルの自室に戻った。



赤と緑のランプがひとつずつ点灯するのは、本来は充電完了のサインだった

充電器の包装箱にある使用法を読むと、正常に電極に装着できたときは緑に点灯するとある。やってみると、赤く点灯した。販売店員の実演でも赤く光っていたのを遠目で見たので、色違いは気にしないことにし、コンセントに差し込んだ。一旦、赤ランプは消えたが、調節すると、赤と緑の二色が点灯した。実演で見た赤と、箱の説明の緑との折衷のような状態だが、わたしはそれで正常に装着できたのだろうと判断し、充電されるのを待った。

しかし、数時間ずつ何度試みても、充電はされなかった。翌朝、購入店を再訪するが、シャッターが下りていて、仕方なく隣の店の人に助けを求めた。その青年は親切に対応してくれたが、充電はできなかった。万能充電器の時代はほとんど去ったのだとさとした。午後に出直し、ようやく前日の店員から、コンセントに挿して赤いランプがふたつ点き、ひとつが点滅するように調整して初めて充電できることを教わった。

左に赤、右に緑が点灯するのは充電が完了し、それ以上充電しないとというサインであった。わたしは充電開始時から大間違いをしていたわけである。大理の調査村で聞くと、現在、ガラケーを使うのは約二割のことだった。万能充電器がすっかり姿を消すのも時間の問題だが、苦勞して使えるようになった万能充電器には愛着を感じてしまう。